

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2871800245		
法人名	株式会社 高林		
事業所名	グループホームときの郷		
所在地	兵庫県西脇市西脇273番地		
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果市町村受理日	平成23年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871800245&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2871800245&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14		
訪問調査日	平成23年7月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様1人ひとりにあった支援を実践し、職員との信頼関係を築き、人生の先輩に色々な事を教わったり  
 支え合って生きがいや楽しみを感じ、その一瞬一瞬の喜怒哀楽を大切に、笑いや笑顔が少しでも多く見られるような共同生活を送って頂く。また職員の意見も取り入れながら生き生きとした働きやすい職場作りをする。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

①**医療連携体制**(法人代表が医師であり、訪問の診療の他、日常の健康管理面や体調変化及び緊急時対応に關しての相談や指示もきめ細かく仰ぐ事が出来る。医療に關しての安心感がある。入院時における関係医療機関との情報交換にも代表が協力をしている。また、隣接の通所介護事業所の看護師にも、随時、相談ができる連携体制となっている。)②**家族とのコミュニケーション**(家族の安心感に繋がるよう、毎月個別のお便りを作成し、利用者の生活面・健康面を含めた状況報告が丁寧に実施されている。また、介護計画の作成にあたっては、見直し時期には、ケアに関する家族の意向や提案を伺うための書面様式を作成し、家族が思いを表出しやすいように工夫をしている。)③**ケア記録・計画の充実**(日々の記録内容等のアセスメントが充実しているので、介護計画書も利用者本位の視点がしっかりと捉えられたものとなっている。)

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念は作っていない。	支援目標の「そのひとらしく」というキーワードを大切にケアの実践に努めている。	ADLが低下してくると、利用者個々の想いと身体状況のミスマッチも起きてきますが、「その人らしく」暮らせる支援の継続に期待をします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の回覧板の受け渡しや、地域活動は季節ごとの町内の清掃作業へ参加する程度で地域の方との交流は少ない。	事業所の開設当初から比べ地域の人の理解も増えてきている。近隣の店にパンフレットを配布し、認知症を抱える家族への相談窓口としてのPR活動も実施している。	地域の社会資源となれるよう、今後も、認知症ケアの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スーパーの入り口にパンフレットを置き、相談の窓口を受けられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月29日に運営推進会議を開催し、現状報告や意見交換をおこなっているが、サービスの向上までは活かしきれていない。	6月に運営推進会議を開催しているが、継続的な取り組みまでには至っていない。具体的なテーマを設定し、次回の開催を検討中である。	会議の議題に沿った方(消防・警察・医療等)も、オブザーバーとして出席して頂く事で、専門的な知識を頂ける機会となります。ご協力を願ってみては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃から連絡のやりとりは出来ておらず、協力関係はあまり出来ていない。	行政の職員が地域との関係性に気遣って下さっており、地域の関係機関との人間関係の構築から取り組んでいる。	自治会や消防、警察など、地域の活動を行っている団体との接点を探ってみては如何でしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が心掛けている。ベッドからの転落防止にベッド柵をする場合があるがご家族様に説明し理解を得ている。また玄関の鍵は危険な事もあり施錠している。外に出たい時は職員に声を掛けて頂けるよう、ドアに記してある。	利用者の安全を重視した取り組みを工夫(玄関のチャイム等)している。また、リビングから庭には自由に入出入りが出来る。好きな時に庭の草花の観賞や外気浴を楽しめる。	具体的な身近な事例等を通じた研修の実施により、さらに理解を深めて頂く事に期待をします。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会は行っていないが、職員のストレス等から虐待にならないよう注意を払い防止に努めている。	虐待の防止について、具体的な取り組みは行っていないが、アンケート結果からは家族の不安要素は見受けられない。	利用者の権利擁護の視点から、虐待防止・身体拘束・プライバシー保護等の研修を定期的実施しては如何でしょうか。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が成年後見制度の研修を受けカンファレンスで勉強会をしている。	現在、家族後見の利用者もいるため制度の理解の機会はある。職員が外部で受けてきた研修を伝達することで、制度に対する共通認識はできている。	「利用者の権利」を深く学ぶことで日常の支援内容にも磨きがかかります。今後も、是非、学習を継続して頂きたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書・契約書をお渡しし、じっくりと目を通して頂き、契約時に内容を説明し同意を得るようにしている。改訂時には文書、及び家族会で説明させて頂いている。	事前に資料を渡し、一読してもらっている。契約時の説明は管理者か施設長が対応しており、退去条件等の分かりにくい箇所は丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には家族様が話しやすい雰囲気作りや職員から話し掛けるようにしている。その都度、職員間で話し合い出来る限り反映するようにしている。	2年前から書面による家族アンケートを実施している。その結果、具体的な内容が伺えるようになった。家族会を年1回開いており家族どおしの交流機会としている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はシフトに入っており、ケアカンファレンス等、日々職員と話し合い、利用者様主体の運営に努めている。	管理者は職員ミーティングにて相談や報告を受けている、施設長が毎日グループホームに来るので、職員の意向などを直接聞いてくれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金を利用している。また楽しく意欲的に働けるよう、職員も考えて動いている。職員個々は資格試験などに挑戦してスキルアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は日々職員と接しているので職員個々の能力は把握出来ている。法人内での研修は行っていない。利用者様の状況が変わるごとに管理者と職員は働きながら意見交換等をしてお互いのスキルを上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていないのが現状である。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れ親しんだ所からの入居で不安を抱え孤立されがちとなる為、職員は側に寄り添い、過去の体験談や生活環境を聞き出したり、話し相手になる様に努める。趣味・嗜好を把握し共感し安心を感じて頂けるよう努めケアプランに導入している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望もお聞きし職員間で共有している。来訪しやすい雰囲気を作り、家族様から尋ねられれば、その都度、適正な対応を心掛けている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントで必要な支援を見極めていくよう努めている。当ホームで対応が可能か説明を行い、他のサービス利用についても説明を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において、利用者様が出来る事を利用者様同士、または職員と共に行っている。そうする中でお互いの会話が多くなっている。職員は常に利用者様に「ありがとう」の言葉を掛けるよう心掛けている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と職員は良好な関係を築けていると思う。また、そうなるように努めている。家族様の来訪時には団らんの邪魔にならない程度に職員も一時を共にし近況報告をしたり、利用者様の昔のエピソードを聞かせて頂いたりしてケアのヒントにしている。ご家族様に外出支援もよくして頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪の足が遠のいてしまうのが現状。家族様が地元の「いきいきサロン」に参加させて下さったり、墓参り等の外出支援をして下さる。	「いきいきサロン」や地域の行事に積極的に参加している。買い物等外出時には、馴染みの方と会う機会もあり、会話を楽しむ事も支援している。お墓参りなど、家族や利用者本人の希望を重視して取り組んでいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の繋ぎ役になり、孤立する利用者様が無い様に努めている。利用者様同士も声を掛け合ったり、励まし、力を貸す、と言う関係が出来ている。時には口論もあるが様子を見ながら職員が仲裁に入る。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様に対しては、定期的な面会を通して利用者様・家族様・病院との連携を大切にしている。退居された、利用者様には一度は面会を行い、必要に応じては新入居先への情報交換も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での発言やしぐさを通して、思いに寄り添うように、職員間での話し合いを密にしている。実際、介護計画書のニーズとしてもあげ、少しでも希望に添えるように努めている方もある。	言動やしぐさ、表情の中から、個人個人の想いを把握する様に努めている。家族にも協力してもらい、その人らしく暮らせる支援に繋げている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族様の協力を得て、生活歴等を記入して頂くようにしている。以降、利用者様との生活の中で気づいた事、聞いた事を随時アセスメントとしてシートに記入している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録の他、連絡ノート、職員間の情報交換を活用し、小さな変化にも気づけるに努めている。一人で判断することなく複数で確認・情報把握をするようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様に「ご意見・ご要望」の記入を依頼し、情報の共有に努めている。担当職員による毎月のモニタリング、半年毎のアセスメントにより仮プランを作成、カンファレンスを開催し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	ケアプランの更新や作成において、書面で家族の意向を確認している。出てきた内容について、職員で共有し、複数の視点で評価をしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡ノート、カンファレンスを通して、又、日々の職員間の情報交換をヒントにアセスメントを繰り返す事で、介護計画の見直しもスムーズに行える事が増えた。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内での対応が大半であり、ご家族様の協力を得る事が増えてきている。学生ボランティアの活用も検討中。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店に買い物に行き好きな物を買ひ、支払いをする時、店の方は話し掛けや笑顔で待って下さり協力を得ています。頻繁に行く事で理解されていると思う。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科は利用者様が以前に行かれていた歯科医院を受診出来るよう支援している。代表が開業医で週に1回来訪し回診している。定期受診など、かかりつけ医の受診は家族様の支援でお願いしている。	法人代表は神戸でクリニックを開業しており、医療との連携情報等のサポートをしている。多くの利用者は協力医に切り替えているが、以前からのかかりつけ医の利用者もいる。その場合は、送迎など原則として家族での対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師がいないが、併設のデイサービスの看護師に相談している。転倒やケガ、状態に変化がみられた時は対応してもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、利用者様の状態を担当看護師に直接情報を得たり、実際に利用者様と接して心身状態を把握し互いに情報交換し退院に備えて準備出来るよう連携をとっている。	入院時や退院に向けての対応は、管理者や施設長(デイ&居宅兼務)が行っている。GHへの入居ケースでは、在宅からの申し込みが多い。退院に向けての職員間の情報共有も行われている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様からは相談を受けた事がある。常時医療が必要で無いかぎり出来るだけ対応させて頂くが当ホームの対応にも限界がある事をお話している。主治医とも話し合い、当ホームで対応が可能か話し合っている。	利用者や家族への説明は、管理者が重要事項の内容に基づいて行っている。マニュアルや指針については今後の課題としているが、現在は法人の代表(医師)からの指示による対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。定期的な訓練は行っておらず、すべての職員が実践力を持っているわけではないと思う。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当ホームから100mの所に避難場所があるが、施設の2階、3階部分へも避難する事が出来る。職員はまだ実践力を身に付けていない。また地域や消防などに協力の働きかけも出来ていない。	夜間は一人体制であるが、法人としての連絡網があり、デイサービスとも連携して対応が可能である。事業所の近くに、地域の避難場所があり、近日常に地元の消防との連携を提案する予定である。	夜間は人員が少なくなるので、夜間想定をした訓練等の継続的な実施をすることで、職員や家族の安心感にも繋がることと察します。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の過去の生活様式、性格、個性を把握しており対応には注意をしている。又、声掛けには時として乱雑な言葉の使用もあるが、ご利用者様が心地よいと感じられる声掛けや対応を日頃から心掛けている。	利用者に対して個別対応を心がけている。職員の研修の充実等まだまだ課題があると感じている。男性職員の数が少なく、徹底した同性介助はできていないが、男性利用者からの拒否は現在はない。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の個々の思い、希望は、その時の状況によって叶えられない事もあるが、時間をおいて、又、日を改めて添えるようにしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や都合をついつい優先してしまいがちになるが、極力ご利用者様の思いやペースを大事にするよう心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣類が少ないご利用者様もおられるが、気候や行事等に合わせてスタッフと共に服選びをしている。ホームで整髪や毛染めの支援も行っている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はデイサービスの厨房で作られて来ますが、食事の取り分け、配膳、後片づけや食器拭き等をスタッフと共にされている。個々に積極的にこなされる方が多い。その日のメニューを紙に書く、食事前にメニューを読む、各担当がおられる。	隣接するデイサービス厨房で委託業者の管理栄養士がメニューを作成している。調理されたものを職員と利用者で盛り付けをしている。季節にあったメニューを楽しむため、年に数回、巻き寿司等のメニュー作りの日を設けている。利用者の役割分担ができており、配膳、片付け、メニューの読み上げなどの取り組みがされている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様1人ひとりの体調や口腔内の状態、嚥下力により、食べやすい形態にしている。栄養バランス、摂取カロリーは管理栄養士によって計算されている。夏場には「水分チェック表」を記し必要な水分量が摂れるようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝時には口腔ケアを行っている。支援が必要な方には必要に応じて介助を行っている。義歯は週一回は、必ず義歯洗錠剤を使用している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、利用者様の持てる能力を活かしていけるよう、排泄パターンやサインを職員間で日々、意見交換し支援を行っているが、自立に向けた支援にまでは行っていない。	現在、半数近くの方が自立である。見守りやトイレ誘導については利用者の状況を把握し対応をしている。初めての場所等への外出時には、余裕を持って行動できるように、必ず下見をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便チェックを行い、出来るだけ自然排便が出来るよう、水分量やおやつを工夫したり、散歩や体操を取り入れている。慢性的な便秘の利用者様は便薬を服薬をしている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には隔日入浴で時間も16時頃までとなっている。体調などに注意しながら無理はせず洗髪など利用者様の意思表示を大切にしている。入浴を嫌がられる利用者様は時間を掛けてかかわり入って頂けるよう努力している。	入浴時間は、土日も含めて毎日、午後の時間帯を使い3～4名入浴してもらっている。柚子風呂や菖蒲湯などのイベント湯も実施している。ADLの低下している利用者様の場合は、シャワー浴に切り替えたりして、隔日の入浴機会を確保している。	「入浴の時間」は貴重な利用者との個別コミュニケーションの機会です。思いを聴きとる大切な時でもあると意識して捉え、ケアに反映されていくことに期待をします。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた寝具や室温に注意を計っている。ほとんどの利用者様が昼食後は1時間程、居室で昼寝をされている。夜が眠られていない利用者様には、日中に散歩や体操、レクなどで活動量を多くして頂いている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の種類、効能を表にして見える所に張り出し理解するよう努めている。症状に変化がある場合は主治医に相談している。服薬に変更がある場合は連絡帳にて情報の共有に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意な事で『誰かの役に立ちたい、立っている』と思って頂けるよう、日々の生活の中で役割を持てるよう、又、張り合いや喜びとなるよう支援している。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所へ買い物や散歩が大半で利用者様一人ひとりの希望にはあまり叶えられていないのが現状。季節時には車で遠出をしている。家族様が外食や外出支援をして下さる利用者様もおられる。	散歩を兼ねて近くの店舗に買物に出かけたり、遠方には車での外出機会も確保している。年末年始に外泊する利用者もある。家族が支援して「ふれあい喫茶」に参加もしている利用者もいる。墓参りや法事での外出等も支援している。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。利用者の思いに沿った支援の継続を願います。また、家族との外出も計画に反映させて、利用者の不安への対応に繋げて頂きたい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望などを聞き、個別に管理している利用者様が大半である。近年、当ホームは重度の方が多くなり、一緒に買い物や外出の機会も少なくなっている。支払いの出来る利用者様には支払いをして頂くなど、個々の残存能力に合わせた方法で支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望や難聴のご利用者様もおられ、電話を掛ける支援はほとんど出来ない。手紙の書ける利用者様はお礼の手紙や年賀状を書き、ポストへ投函まで出来るよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには利用者様の作品を展示したり、季節行事の飾り付けや草花を飾ったりしている。テラスでは季節の野菜を作り、食事に出して食べている。リビングのテーブル・イスの脚には音が出ないように工夫をしている。また、夏期には外からの光を和らげる為遮光ネットを使用している。	明るい居間からは自由に庭に出入りすることができる。庭には季節の花や野菜なども植えられており、収穫野菜が食卓にあがる時もある。共用のスペースには、利用者の作品や、職員が企画した行事への参加記録写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは皆さんが自分の席に座られ、出来る限り気の合う方や落ち着ける席にしています。談話コーナーや落ち着いて居られる場所も作り、テラスや玄関にもイスやベンチを置き思い思いに過ごしておられる。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ馴染みの物を持ってきて頂くようお願いしている。居室が狭いのであまりたくさん物を持ち込まれると混乱もされるので最小限の荷物で居心地よくして頂けるように努めている。テレビ番組を毎日チェックして楽しみにされている利用者様もおられる。	各部屋にトイレと洗面があり車椅子対応となっている。部屋の入口には個々に表札が掲げられており、利用者の個別性に配慮がされている。馴染みの品や、TV、盆栽など、利用者の生活スタイルにあったものが持ちこまれている。	今後も、出来る限り自立した生活の継続を目標に、本人の現在の移動・移乗の状態に合わせた動線の安全確保ができるように、家族と相談しながらの対応に期待をします。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札や目印になるような物を付け、トイレの場所が分からない利用者様には居室内のトイレ入り口に表示している。テーブルやイスに利用者様の名札を付けている。『場所が分からない・違う』で混乱や他利用者様から攻撃を受けないよう工夫している。		